



■「初めて」と「一流」と

2年生の皆さんは、10月8日（火）～11日（金）3泊4日の日程で研修旅行に出かけます。4日間のうちには、皆さんが初めて出会う“もの”や“体験”あるいは“価値観”が多くあると思います。初めての飛行機、初めての東京、初めての劇団四季や東京ディズニーランド（TDL）etc. 日本の首都東京を自分自身の目で見てその雰囲気を感じて体感することは、皆さんのこれからの人生に大きな示唆（しさ）を与えてくれるはずです。そして、見たり感じたりするだけでなく、首都圏に居住している人々の考え方に実際に触れることで、改めて自己の価値観を問い直す契機になるとも思います。

2日目の9日（水）には、埼玉県立小川高校の皆さんとの交流会を予定しています。島根県と埼玉県には、互いに異なった気候や風土を背景とした歴史や文化があります。当然居住している人々の価値観も互いに異なっています。国内外それぞれの地域には、それぞれの価値観が存在しています。どちらが正しいというものではありません。大切なのは、互いの価値観を認めながら、自分がこれまで“あたりまえ”とってきた価値観を見つめ直すことです。この観点から考えると、柔軟に物事を考え積極的に他者の意見に耳を傾けることのできる世代である高校生同士の交流は、大変意義深いものと言えます。互いに顔を合わせるまでは、ワクワク感とともに不安感もあるでしょうが、異なる地域に居住しながらも同時代を生きる同世代同士、共有できる話題もたくさんあると思います。対話をしながら、それぞれの価値観を確認したり共感したりできる機会にしてほしいと願っています。知らない土地で知らない人に出会うことで、自分自身の視野が広がるとともに、これまで意識しなかった自分の住んでいる地域の良さを再発見できることにもつながっていくと思います。

今回の研修旅行には、冒頭に紹介したとおり劇団四季の『ライオンキング』観劇やTDLでの“夢の国”体験など、エンターテインメントやサービス業界における一流を体験できるようなコンテンツを組み込んでいます。ただ単に観るだけ、遊ぶだけではなく、その仕事に従事されている方々の一挙手一投足にも注目してみてください。接客の仕方や立ち居振る舞いをじっくり観察することで、きっと新たな気づきや学びが得られるはずです。

皆さんにとって、今回の3泊4日の研修旅行が有意義なものになることを願っています。



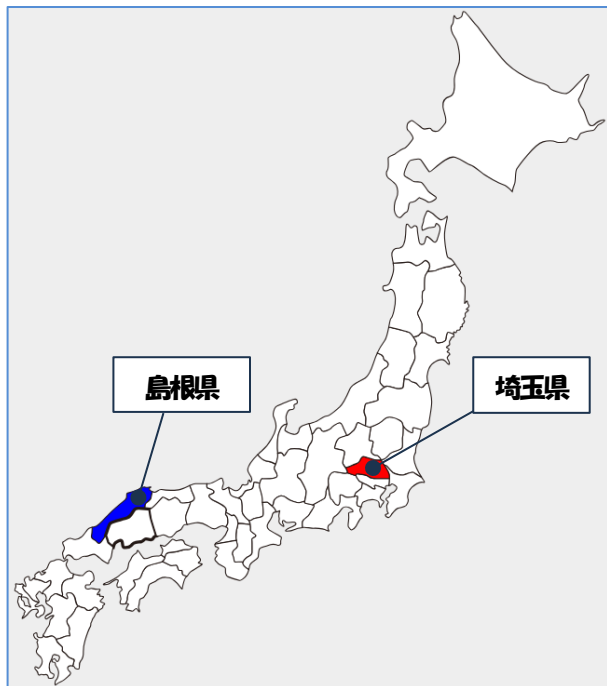
小川駅



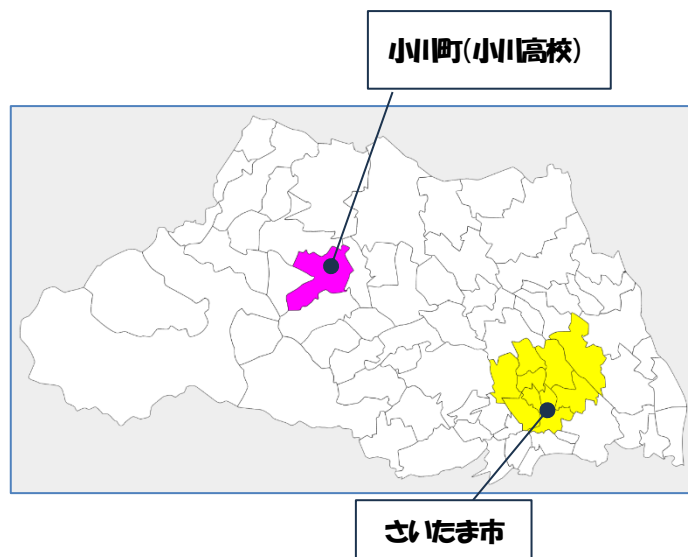
小川高校



【埼玉県と島根県】



■埼玉県立小川高等学校
<https://ogawa-h.spec.ed.jp>



【基本データ (人口)】

埼玉県 7,329,730 人 (令和6年9月1日現在)

小川町 27,556 人 (令和6年10月1日現在)

島根県 641,903 人 (令和6年9月1日現在)

雲南市 34,591 人 (令和6年8月31日現在)

【参考 (笑)】

島根県 8,641,903 人 (令和6年旧暦10月1日現在, 八百万 (やおよろず) の神様含む)

■小川町（おがわまち）と雲南市



【小川町】

○図案

小川町は、和紙の産地であるので「小」の字を巻紙風に作画し、将来における町勢の力強い飛躍発展を末広がり表現。「川」は住民の和合・円満あわせて清流を象徴したものです。



○沿革

昭和30年2月11日、比企郡小川町、大河村、竹沢村、八和田村の1町3か村を合併し、昭和31年1月1日、寄居町大字西古里と鷹巣の各一部を編入して、現在の小川町が誕生しました。当町は、埼玉県中央部よりやや西に位置し、面積は60.36平方キロメートルです。周囲を緑豊かな外秩父の山々に囲まれ、市街地の中央に槻川が流れる小川町は、歴史を誇る小川和紙や小川絹をはじめ、建具、酒造などの伝統産業で古くから栄えた町です。

また、歴史を秘めて佇む史跡や往時の面影を留める町並みなど、その風情からいつしか「武蔵の小京都」と呼ばれるようになりました。

(小川町ホームページより)

【雲南市】

○図案

雲南市の「U」をモチーフに、「いきいきとした自然・人・街」、「生命と神話が息づく新しい日本のふるさと」をイメージし、全体として未来に向かって躍動・発展する雲南市を力強く表現している。



○沿革

雲南市（うんなんし）は大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田村・掛合町の6町村が合併して平成16年11月1日に誕生しました。新市の名称については、合併前、大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田村・掛合町合併協議会において、全国公募を行い2,939点の応募をいただきました。ご応募いただいたものの中より、「雲南市」と「南雲市（なぐもし）」の2つに候補が絞り込まれましたが、最終的に「雲南市」となりました。

「雲南」という名称は、旧国名「出雲」の南に位置する地方の意味として、近代（明治）以降使用され、合併前の旧大原郡、飯石郡、仁多郡をあわせて「雲南三郡」と呼ぶなど、古くからこの地方を表す呼び名として定着していました。そのため市内には〇〇株式会社雲南営業所、公立雲南総合病院、雲南消防本部など、雲南市が誕生する前から「雲南」の名称を用いた企業などが多くありました。また地域別天気予報にも雲南地方として採用されています。

これらのことから、住民の生活の中で古くから多く使用され、誰もがなじみやすく、愛着の持てる「雲南」という地名を継承し、新市名称を「雲南市」と決定しました。

(雲南市ホームページより)

※雲南市は今年「市制施行20周年」を迎えました。

右は記念市章。



龍頭が滝

スパイス 桜

加茂岩倉遺跡

コウノトリ

御衣黄(緑の桜)

永井隆博士のふるさと 平和のまち